

# 令和元年度第2回遠野市総合計画審議会

## — 議事概要 —

(開催要領)

- 1 日時 令和2年3月23日(月) 午前10時00分～正午
- 2 場所 遠野市役所本庁舎 多目的大会議室
- 3 出席者

(1) 委員

社会福祉法人遠野市社会福祉協議会	臼井悦男
地域団づくり団体	佐々木栄洋
一般財団法人遠野市教育文化振興財団	及川旺子
遠野市消防団	松田克之
NPO法人遠野エコネット	千葉和
遠野市食生活改善推進員団体連絡協議会	菊地セツ子
遠野市体育協会	河野好宣 (代理 熊谷 義弘)
遠野市民生児童委員協議会	佐藤正市
遠野市わらすっこ支援委員会	松田希実
遠野地方森林組合	濱田平八郎
一般社団法人遠野市観光協会	三浦芳昌
遠野商工会	佐々木弘志夫
遠野市校長会	小向敏夫
遠野市郷土芸能協議会	佐々木國允
遠野市区長連絡協議会	内館充幸
遠野市金融団	畑山英己
遠野ひまわり基金法律事務所	沼徳之章
遠野テレビ	佐々木浩章

(2) 遠野市

市長	本田敏秋
副市長	飛内雅之
教育長	菊池広親
総務企画部長	佐藤浩一
経営企画担当部長	菊池享
健康福祉部長	鈴木英呂
子育て応援部長	佐々木一富
産業部長	中村光一
プロジェクト担当部長	阿部順郎
環境整備部長	奥寺国博
市民センター所長	小向浩人
文化振興担当部長	石田久男
教育部長	澤村一行
消防本部消防長	菊池久人
会計管理者	鈴木純子
総務企画部総務課長	伊藤貴行
総務企画部政策担当課長	白岩克己
総務企画部財政担当課長	海老寿子
総務企画部政策担当	佐々木利幸・松田健一・箱山大樹

(議事次第)

- 1 開会
- 2 市長あいさつ

- 3 会長あいさつ
- 4 委員及び職員紹介
- 5 報告
  - (1) 新型コロナウイルス感染症への対応状況について
  - (2) 令和元年度主要な施策等の取組状況について
  - (3) 令和2年度主要な施策及び当初予算の編成状況について
- 6 審議
  - (1) 第2期 遠野スタイル創造・発展総合戦略の策定について
  - (2) 遠野市国土強靱化地域計画の策定について
- 7 閉会

(配付資料)

- |                             |                    |
|-----------------------------|--------------------|
| 1 次第、名簿、座席表                 |                    |
| 2 新型コロナウイルス感染症対策に係る取組みについて  | …報告資料 No.1,1-1~1-5 |
| 3 主要な施策等の取組状況について           | …報告資料 No.2         |
| 4 令和2年度主要な施策について            | …報告資料 No.3-1       |
| 5 令和2年度一般会計予算について           | …報告資料 No.3-2       |
| 6 遠野スタイル創造・発展総合戦略           | …審議資料 No.1-1       |
| 7 第2期遠野スタイル創造・発展総合戦略の策定について | …審議資料 No.1-2       |
| 8 遠野市国土強靱化地域計画（案）           | …審議資料 No.2-1       |
| 9 遠野市国土強靱化地域計画（案）について       | …審議資料 No.2-2       |

\* 1・2は当日配付。

(議事概要)

1 開会

○白岩政策担当課長

本日は、お忙しい中、遠野市総合計画審議会にご出席頂きまして、誠にありがとうございます。

ただいまから、令和元年度第2回遠野市総合計画審議会を開会します。私は、政策担当課長の白岩と申します。どうぞ、よろしく申し上げます。

本審議会には、各団体から推薦を頂いた、代表者の方々を含めて委員を構成しておりますが、年度の異動等により、新たに推薦頂いた2名の皆様をご紹介します。

一般社団法人遠野青年会議所 小笠原正剛様。遠野市民生児童委員協議会 佐藤正市様。なお、小笠原様につきましては、本日所用につき、欠席の連絡を頂いております。

時間の都合上、お手元に辞令書を配付させていただいておりますので、ご了承ください。続きまして、本田市長からご挨拶を申し上げます。

2 市長あいさつ

○市長

おはようございます。3月も23日。昨日は、復興の火、ギリシャで灯された聖火が宮城県に入り、昨日、宮古から釜石までは三陸鉄道で、釜石からはSL 銀河に乗って遠野にも立ち寄った。600名を超える市民の皆様が、復興の火を迎え、見送った。直前まで雨模様であったが、聖火が到着する時には、雨が上がり風もなく、穏やかに迎え見送ることができた。多くの市民の皆様の笑顔があった。セレモニーは一切しないということであったが、直前に主催者から、ランタンを持って、展示台に運んで欲しいということで役目を頂いた。担当から聖火を受け取った時の重み。まさに、全世界を揺るがしている、コロナショックにどう向

き合うかということに、大きな課題を、重みの中から感じ取ったところである。

3月23日、年度末で大変お忙しいところ、委員の皆様にはお集まり頂いた。報告事項がある。コロナウイルス対策に対して、遠野市がどう向き合っているかという事に対して、ご報告申し上げる。令和2年度も間もなく始まる。平成から令和元年といった中に、遠野市の色々な主要施策がどのように展開され、どのような成果を得たかについて、ご報告申し上げようと思っている。委員の皆様からは、それぞれの立場の中から、大変なご協力とご理解を頂きながら、課題は山積している状況の中でも、課題に一つ一つ向き合いながら、乗り越えようとする市民の皆様のを踏まえながら、対応している状況についてご報告を申し上げます。

今日から、小中高は登校という事で学校が始まっている。給食も始まった。教育長とも連携を取り合っているが、感染予防対策を万全にししながら、心身ともに、子ども達のよりよい環境を作っていかなければならない。駄目だ、駄目だだけではなく、どう向き合うかは極めて困難であるものの、向き合っていかなければならない、避けては通れないという想いの中で、教育委員会の判断もあったということをご報告申し上げます。

さらに、協議事項は2つほどある。これも、遠野市にとって大きな課題である。1つは、まち・ひと・しごとの中で、地方創生法の風が吹いた。5年経った。5年間の動きは大きなものであった。政治、経済情勢も含め、そのような中で地方頑張れ。少子高齢化の中でどのように向き合うのかにおいて、まち・ひと・しごと総合戦略は大変重要な計画である。5年を総括しながら、令和2年度は2期計画にもちこまなければならないという状況にあった。委員の皆様メンバーからも、有識者という立場に基づき、2期計画をどうたてるかで、大変貴重な意見を賜ることができた。地方創生、地方頑張れ。そのような中で、第2期計画として取りまとめた。委員の皆様へ、ご報告、ご説明申し上げ、意見を賜りたいと思っている。

もう1つは、国土強靱化に伴う地域計画の策定である。想定外という言葉が、ごく当たり前前として使われる気象変動。そしてまた、台風19号のように、まさに想定外、日本列島全体を覆って、大変な被害を及ぼすという状況が続いている。地震も、活発に日本列島で発生している。そのような中で、危機管理、ソフトハードをどのようにということで、国土強靱化地域計画をしっかりと立てながら、市民の皆様への安心、安全、災害防止に向き合わなければならないということで、昨年12月、地域計画をしっかりと立てようということで、チームを立ち上げた。チームによって、策定は、濃密に作業が進められた。このほど、国土強靱化地域計画として取りまとめることができた。19のソフト、ハードを合わせると38の事業がこの計画に位置付けられたところである。災害を起こしてはならない。災害は、未然に防止しなければならない。そのような思いの中で、地域計画を立てたところである。この地域計画は、見える化という言葉の中で、この計画にしっかりと位置付けていけば、事業採択、予算の導入に、優先的に配慮してくれるというのが、国の方針である。国の計画と、県の計画としっかりと整合性をとりながら、遠野市民の安心、安全をしっかりと確保するという地域計画である。今日、ご説明、ご報告申し上げますので、委員の皆様への忌憚のないご意見を願いたい。岩手県にとっては、33の市町村のうち、二戸市について2番目の計画策定になる。国に対するインパクトも、かなり強いものになると思っている。

様々な課題があるが、今、大規模太陽光発電にどう向き合うかは、大きな課題であった。今、小友で展開されている、メガソーラー、大規模太陽光発電事業については、事業主、施工業者と真正面から向き合いながら、様々な対策を講じるように、強く指導を行っているところである。

また、松崎地区の2つの事業についても、事業主としっかりと向き合いながら、大きな課題に市としても、真正面から取り組みながら、これについても方向性を見出したいと思っている。そのようなことを踏まえて、去る3月定例会市議会において、全国ではあまり例のない、基本的には大規模太陽光発電、メガソーラーを遠野は受け入れない、という条例を制定することができた。全会一致で可決頂いた。届出制から許可制。そのような方向に持ち込んだことも、市民の皆様の大きな力があつたからこそ、条例の改正ができたのではないかと考えている。そのことをご報告申し上げながら、限られた時間ではあるが、よろしく願い申し上げます、冒頭のあいさつに代えさせて頂く。ありがとうございました。

### 3 会長あいさつ

#### ○臼井会長

ごくろうさまでございます。昨年8月6日以来の審議会になる。長い期間経過しているが、委員の皆様には、それぞれの立場でまちづくりにご参加頂いていることに深く感謝申し上げます。市長の御挨拶にもあったが、世の中が一変する出来事があり、緊張の毎日が続いていると思っている。2月に開催された市民の舞台、座敷わらしの白い花にこのようなセリフがあった。座敷わらしの言葉であるが「あのな、人は困ったときこそ、その人の真価が問われるんだど」。そのような話があった。それを今、思い出している。皆の知恵を結集して、難局を乗り越えていかなければならないと思う毎日である。

本日は、総合的な計画に関する報告3件が用意されている。また、総合的な計画の策定に関する事項として、審議事項2件が用意されている。事前に資料は頂いているが、そう簡単にわかることにもなりませんので、まずは説明を聞いて頂いて、皆さまからご意見を頂きたい。説明は、特に強調したいこととか、ご意見を頂きたいということに、力点を置いて、分かりやすくお願いしたい。限られた時間を活用したいと思っているので、お願いしたい。

### 4 委員紹介・資料確認

#### ○白岩政策担当課長

本日は、25名中、代理を含めて、現時点で16名が出席している。7番食改協の菊地委員、23番金融団の畑山委員は、急用があって遅れて出席との連絡があった。

なお、欠席の報告については、6番医師会の千葉委員、11番花巻農業協同組合の菅原委員、15番青年団体協議会の小笠原委員、17番市P連の菊池委員、20番市婦協の海老委員、21番県南局の鈴木委員、22番地域づくり団体の高宏委員から欠席の報告があった。代理出席として、8番遠野市体育協会理事長の熊谷義弘様に出席いただいている。なお市の出席者については、別添資料に記載しているので、省略させて頂く。(配付資料の確認。会議日程の説明。)

### 5 報告

#### ○臼井会長

次第の5報告に入る。3件が用意されている。事務局の説明をお願いする。まとめてご説明を頂いて、質疑を受けたいと思う。

#### ○佐藤総務企画部長

報告1 新型コロナウイルス感染症対策に係る取組みについて

#### ○菊池経営企画担当部長

報告2 主要な施策等の取組状況について

#### ○白岩政策担当課長

報告3(3-1) 令和2年度主要な施策について

#### ○海老財政担当課長

報告3(3-2) 令和2年度一般会計予算について

#### ○臼井会長

一つ一つが大事なことで、色々ご意見を頂きたいが、皆様からご質問があればお願いしたい。

#### ○佐藤正市委員

新型コロナウイルスの3月中の状況は分かった。4月はどうなっているのか。民生委員であるが、入学式の案内がきていない。引き続きご遠慮願うとなるか、予定通りやるのか。

○澤村教育部長

昨日の国の有識者委員会の結果を受けて、今週中の早い段階で、文部科学省から新たな方針が示される予定になっている。遠野市では、本日から小中学生の登校を始めている。4月は、現在のところ、通常通りの入学式を予定しているところであるが、今後、県内に感染者がでるなどの状況となった場合は、それに応じた対応を予定している。

○佐々木弘志委員

新型コロナウイルスであるが、厚労省では、不特定多数の人が出入りする場所では、エレベーターのボタン、手すりの消毒を定期的にやってくださいというという事が、推奨されているようだ。庁舎はそのような対応をされていないと聞いたので、発生源にならないように、対応をお願いしたい。

○臼井会長

要望のような発言であったが。何かあれば。

○菊池経営企画担当部長

そのように対応させて頂く。

○臼井会長

その他にはないか（無しとの声）。それでは、審議事項に入らせて頂く。

○白岩政策担当課長

○審議 1 第2期 遠野スタイル創造・発展総合戦略の策定について

○臼井会長

ご意見を頂いて、修正をしていくということなので、皆さんからのご質問、ご意見をお願いしたい。審議事項は2つあるが、お一人一言が発言できる時間はあると思っている。是非よろしく願いたい。

○佐々木國允委員

郷土芸能協議会の佐々木です。この会議でいつも申し上げている健康について、健やかに人が輝くまちづくりについて、事業に加えて欲しいと思っているので、資料を2部準備してきた。戦略の中で、基礎学習事業というものを是非取り入れてもらいたいと思う。皆さんに配付になる資料は、私が56歳の時に、人の体の仕組みの体の入れ替わりという知識を得ることができた。もっと知りたいと思ったので、健康や時間やお金の使い方に役立てていければと思っている。義務教育の中で、人の仕組みを学習させていけば、健康な生き方ができて、豊かな生き方ができるのではないかと考えている。食には前にも話をしているが、小学5年生の家庭科の教科書に、体を作る食べ物、体の調子を整える食べ物というのが出てくる。体の入れ替わりがあるという知識は、高校まででは習った記憶がない。このような医学的な専門的な知識を、子ども達に学ばせて欲しいと思う。総合計画の中で、3年なり5年なりを、人づくりとしてこうした内容の講演をやって頂いて、健康づくりにもっともっと力を入れて欲しいと思う。資料に、食べることより睡眠が大事だということを強調している。なぜそうなのかという資料を配付させて頂いた。偶然、例があがっている。新型コロナウイルスで騒いでいるが、これを食べて、睡眠すればすぐに治るというものではなくて、1カ月は効果が表れるまでには時間がかかる。一週間後に健康診断があるから取り組むといっても、無駄である。一カ月前から、生活なり自分の管理をすることが大事である。風邪さえひかない食生活であるとか、横綱格の重い花粉症を克服という例もある。ウイルスキラーと言われる食べ物は、特に朝食だが、果物。ビタミンCを取ることによって、インフルエンザなどにかからないようにするということが、はっきりしている。3年なり5年なりを一つの区切りとして

講演会をお願いしたいという事は、市民を対象にした講演会である。そのような講演会をして学習して頂くのと同時に、食事について、ミラーというものがある。自分が、今朝ご飯を何グラム、みそ汁をどのくらい、くだものをどれくらい食べたのかを書いてそれをソフトに入れると、何が足りて、何が足りないかがすぐに出てくるようになっている。そのようなソフトを持っている方がいるので、市でも是非導入して頂き、もっと、具体的な指導をしていけば、健康で薬を飲まない人が増えるのではないかと思う。身内にも、透析をしている人がいるが、1年間に1千万円くらいかかると聞く。そのような部分が減ることで、日本がもう少し豊かになるのではないかと思う。健康な時は困らないが、風邪をひいたときは、今度からは睡眠を取るとか、食べ物をしっかりと取るというようなことは、誰もが経験をしていることかと思う。日頃から、取組をすることで、コロナウイルスが出て、怯えるような生活をしなくてもよくなるのではないかと思う。体の仕組みについては、子ども達に義務教育の中で学ばせて欲しいということである。健やかに人が輝くまちづくりに大分力をいれていて、子育てにも重点事業が入っているので、具体的な事業の展開をお願いしたい。

○臼井会長

色々意見を伺う場であるので、何かあればお願いしたい。

○澤村教育部長

子どもに関係するご発言もあったので、教育委員会として考えを話したいと思う。基本的には、子どもの健康教育について、学習指導要領に基づいて、育ちの段階に応じた教育はされている。ご提言のあった内容は、どの程度取り組まれているかは、内容を確認させて頂かなければならない。一方、学校の教育課程のみならず、学校保健会、PTAの活動の中で、子どもの健康に関して、各種講座等を開催等もしている。そうした、関係者に情報提供をして、取組について検討して頂くようにしたいと思う。

○菊池経営企画担当部長

総合戦略の中では、具体的に踏み込み難いところでもある。総合計画の方で、毎年ローリングの中で、翌年度に実施する計画を、前年に3年分の見直しを行っているので、ローリングの中で、提言のあった内容を検討させて頂く。

○臼井会長

順を追ってやってきたという説明があった。有識者会議の皆さんの検討状況など。他にはないか。今日の意見を頂いて、最終的に仕上げることになっている。

○佐藤正市委員

計画書の42Pの重点プロジェクトの5番。高齢者の自立と社会進出の促進とある。基本目標は41Pにあって、参加者数や受診率が表されている。特にICTの健康づくりについて、事業の達成率も最近は高くなり、参加者数も多くなっていると聞いている。喜ばしいことと思う。42Pの上から5番目に、事業参加者と非参加者の年間の医療費は、年間7.8万円の抑制効果を示すことができたとある。どのような比較であるか。この事業は良いことだと思っている。逆にいえば、今後も進めていくべきと思う。数字が一人歩きすると、わからないままに、評価してしまうと国保税を下げたらどうか、というような議論になっては困ると思う。一人当たり7.8万円、恐らく年間であると思うが、遠野市内の参加者と参加していない同じ年代の方々の比較であるか。比較対象が分からないので、教えて頂きたい。

それと、人口推計にもあったが、高齢者は一般的に65歳以上となっている。各企業とも、定年年齢を60歳から65歳、若しくは、年金の支給を70歳からという議論になっている。そうすると、65歳まで働くのは当たり前、70歳まで働かなければならないとなってくる。41Pにある、シルバー人材センターの受託事業の就業延べ人数。一時期、遠野市のシルバー人材センターは、会員100%就労で表彰されたこともある。この数値を見ると芳しくない。高齢者のパワーをもっと活用して、子育て並びに高齢者、同業者の方々の支援をする、そのような仕組みを考えないと、市内で介護施設の中止、閉鎖もあるので、もう少し、高齢者パ

ワーを活用した対応を今後考えていかなければ、市内で就労者を確保するのが難しくなってくると思う。まずは7.8万円の根拠を教えてください。

○鈴木健康福祉部長

この7.8万円は、財政課長が来年度事業の話をしたが、広域連携による健康づくりを、令和元年度から始めている。その指導を頂いているのが、筑波大学の久能先生という方である。筑波大学と、タニタヘルスリンクとの協働研究によって、一つのベンチャー企業を作っている。そこと協力して、28年度から30年度に、遠野市の健康づくりに参加している人と、同年代で参加していない人の医療費の分析を3年間に渡って行っている。その結果として、7.8万円の抑制効果があるということになっている。これは平均値である。そのような形で、成果を結果として出して頂いた。詳しい情報は、福祉の里に、計算方法やどのような方を対象としているか、後で提供したいと思う。そのような形で提供している。

○佐々木栄洋委員

先ほど質問のあった、達成率が低いのではないかという事について、有識者会議の中でも質問があった。目標値に対して、実績値として出された数値となるが、目標値の設定の仕方も適切かどうかという踏み込んだ議論もしている。

○臼井会長

会員の100%については、続いているというようには聞いているが、目標値とは差があるという状況のようである。

その他にはないか。(無しの声)。意見を頂いて仕上げるということになっているので、意見を踏まえて、修正する事項があれば、修正をして頂くことで、今まで出た意見を、総合計画審議会の意見ということをお願いしたい。

○白岩政策担当課長

審議2 遠野市国土強靱化地域計画の策定について

○臼井会長

皆さんから意見をお願いしたい。

○千葉和委員

防災という事で、非常に防災に関心が高いと思う。遠野の場合、地震も、豪雪もだが、水害が一番、今年の夏などはどういう災害が起きるかということで、私自身も危険を感じている。遠野の場合、水害が一番大きなことかと思う。川の上流には森林がある。会として、森林ボランティアで、山にいて間伐の作業をしている。その森林がどういう状況になっているかを、ある程度流域毎に、ハザードマップ等で、市街地はマップ化されているが、その上流の森林がどうなっているのか。遠野の場合8割が森林で、その半分が国有林である。国有林の方とも一緒に、上流がどうなっているかということ、ある程度理解しておかないと、そこでどういうことが行われているかといことがある。

テレビを見ていると、水源地で外国資本が入って買うとか、先ほど問題になっていたメガソーラーの問題もあるので、その森林がどうなっているのかを、しっかりと理解しておく必要がある。希少生物が、知らないうちに種が少なくなっている。遠野も、あたり前にいたカエルも全国的にかなり減ってきている。生体系の部分や、水源涵養や土砂流出防止などの色々な機能がある。遠野の8割を占めている、森林の部分にも目を配るようお願いしたい。森林環境譲与税が遠野にも来ていると思うので、森林の環境調査にも、木材のことだけではなく、環境ということも含めて、これを是非使って頂きたいという意見である。

○中村産業部長

環境譲与税で、今後6年をかけて市内の材積調査を予定している。航空レーザー測量を使って、詳細な調査を行う。森林の状況が把握できるということになる。水源の状況も分かっ

てくる。森林管理署も連携して、市の環境整備部とも連携して対応していきたい。

○臼井会長

高齢者福祉の現場から来ているのは、社会福祉協議会の私であるので、お尋ねしたい。資料編の69P。色々なところ書いているが、分かりやすい例で説明をする。高齢者等の活用のこと書いているが、市が設置しているふれあいホームはOKだが、各法人が運営する施設は確認する必要がある。分からないと書いてある。脆弱性の調査だからこのように書かなければならないのかもしれないが、分かるはずである。分かるようにして表現すべきではないかと思う。

少なくとも、新しく建っている施設については、十分に対応していると思うし、遠野市が介護保険者になってそれぞれに担っていただいているので、分からないところに年寄りを預けているという事になると、家族が不安になるばかりである。あまり謙遜しないで、きちんと書くべきではないかと思う。

○鈴木健康福祉部長

仰る通りである。短時間の中で作ったは言い訳にはならないが、それぞれの施設には、耐用年数や様々なことで、情報は承知しているので、表現の仕方については、検討させて頂く。

○臼井会長

29Pの避難所運営マニュアルという言葉がある。そのようなマニュアルがあるという事がわかったので、見せて欲しいと話したところ、わが社には無いということであった。

どこにあるかをホームページで見たところ出てきた。これについては、市民周知がなされていないと書いてある。市民周知どころではなく、運営にあたるところに何も届いていない。

平成30年1月に遠野市が作ったマニュアルある。作れば良いというのではなく、作ったものをどうするかの視点で、説明もしなければならぬし、市民周知ができていないということを書かなくてもいいようなやりかたをすべきではないかと思う。これは、消防で作ったもののようだが。

○菊池消防長

消防総務課でマニュアルを作った。その際には、自主防組織の連絡会では説明をしている。各町の防災研修でも説明をしているが、地区毎の研修では、集まる人など特定の人になってるので、改めて運営する人に研修をし、説明をしたいと思う。

○三浦芳昌委員

地域特性と想定するリスクについて、火災が入っていないのは、火災はあくまでも自然災害ではなく、人災ということになっているからか。

○白岩政策担当課長

大規模自然災害という想定での計画になっているので、火災は入らない作りである。

○三浦芳昌委員

遠野は山に囲まれているので、山火事が発生した場合は、隣の町とも山が続いていることもある。山火事が発生した場合においても、自然災害に入らないということによいか。

○白岩政策担当課長

山火事については、発生したあとの対応ということで、地域防災計画で対応していくことになる。

○三浦芳昌委員

あくまで山火事は、自然災害にはならないということで理解した。

○臼井会長

小さな疑問でもご発言頂き、周りの方々にも理解して頂くというようにしたい。他にないか。

○千葉和委員

豪雪対策で、去年や今年は雪が少ないが、大分前に自宅にも結構雪が多く降った。春先に、除雪にでられないのかと聞いた時に、予算がないからでられないという話があった。雪がないときにお金を貯めておく、除雪だけではなく、災害に備えるような基金を作ることができないか。こういったものをやる時に、お金がかかるのだと思う。国からお金がでるのに、難しい審査が大変だと思うので、お金を貯めておくことができないかと思うが。

○菊池経営企画担当部長

予算については、単年度の予算が原則ではある。単に除雪の予算だけではなく、道路整備等の全体的な予算にも充てている。その部分については、除雪費のために繰り越すことはできない。大規模な災害に備えて、財政調整基金を復旧費に充てることのできるようになる。今回の国土強靱化計画については、橋梁、道路、施設など、今後長寿命化を図っていくということも含めての計画である。

○佐々木國允委員

計画で洗い出してみれば、改善しなければならないことが出ている。すぐにできるものなのか。それとも計画で出しておいて、分かっていたが災害で被害を受けたということになるか。

○白岩政策担当課長

そのまましておくものではない。なぜこの計画かという、道路、河川、橋梁を災害から守るために、古い施設が殆どなので、更新をしていかなければならない。非常に大きなお金がかかる。国の財源を出来るだけ引っ張ってくるためには、この計画が無いと、重点化に採択されないということになる。この計画を作って、遠野市の弱い部分を、国からなるべく財源を引っ張ってきて速やかに強化したい考えである。

○臼井会長

トータルのようなご質問があって、そのやり取りで見えてきたところがある。他にはないか。まだまだあるかとも思うが、以上のような内容でよろしいか（賛同の声）  
色々出させて頂いたが、必要な部分は取り上げて頂ければと思う。  
続いて、3のその他に入る。事務局はあるか。

○白岩政策担当課長

特にはないが、来年度は委員の改選になる。改めて各団体にご照会をして、推薦をして頂くことになるのでよろしくお願いしたい。

○臼井会長

その他は無いという事なので、事務局にお返りする。

○白岩政策担当課長

今日頂いた意見を踏まえて、最後のまとめにしたいと思う。以上をもって、令和元年度第2回総合計画審議会を終了する。